

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	北陸財務局長
【提出日】	平成24年11月12日
【四半期会計期間】	第46期第2四半期（自平成24年7月1日至平成24年9月30日）
【会社名】	株式会社ナナオ
【英訳名】	EIZO NANA O CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 実盛 祥隆
【本店の所在の場所】	石川県白山市下柏野町153番地
【電話番号】	076（275）4121
【事務連絡者氏名】	執行役員 経理部長 兼 IR室長 出南 一彦
【最寄りの連絡場所】	石川県白山市下柏野町153番地
【電話番号】	076（275）4121
【事務連絡者氏名】	執行役員 経理部長 兼 IR室長 出南 一彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第45期 第2四半期 連結累計期間	第46期 第2四半期 連結累計期間	第45期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高 (百万円)	27,862	28,489	59,559
経常利益 (百万円)	1,353	1,115	4,479
四半期(当期)純利益 (百万円)	810	599	1,636
四半期包括利益 又は包括利益 (百万円)	1,187	729	1,243
純資産額 (百万円)	57,307	56,415	57,678
総資産額 (百万円)	74,511	74,138	77,032
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	36.31	28.12	74.08
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	76.9	76.1	74.9
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	5,213	2,043	2,736
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,145	1,173	679
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	716	533	2,776
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	16,632	16,878	16,714

回次	第45期 第2四半期 連結会計期間	第46期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成23年7月1日 至平成23年9月30日	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益 金額 (円)	42.44	39.51

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業等のリスクについて、重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、欧州においては、債務問題や金融危機が解消せず厳しい状況で推移しました。日本経済においては、震災復興関連需要が景気の下支えになるも成長のペースは鈍化し、輸出の低迷や常態化しつつある円高の影響も受け、依然として先行き不透明な状況が続きました。

このような状況下、本年7月1日から欧州における主要な販売子会社であるEIZO Europe GmbHにおいて本格的な営業活動を開始し、また、業務の効率化を通じた経費の削減を徹底する一方で研究開発活動への投資は積極的に行う等、事業活動の拡大・強化を図ってまいりました。

当第2四半期連結累計期間における当社グループ全体の売上高は、28,489百万円（前年同期比2.3%増）となりました。品目別の売上高は次のとおりであります。

【コンピュータ用モニター】

売上高は12,616百万円（前年同期比22.6%減）となりました。

ユーロ安に伴う当社製品の価格競争力の低下や、欧州の財政不安に対する懸念から需要の停滞が続いたこともあり、全体として低調に推移しました。また、本年7月から欧州の主要な代理店であったAvnet社からEIZO Europe GmbHに販売業務を移管するにあたり、本年5月以降の出荷をAvnet社からEIZO Europe GmbHに切り替えたため、同社が営業を開始する7月まで本格的な販売ができなかったこと、及びAvnet社との販売代理店契約の解消に伴う同社保有在庫の買戻しを売上の返品処理としたことも売上高減少の要因になっております。

【アミューズメント用モニター】

売上高は11,232百万円（前年同期比43.0%増）となりました。

アミューズメント用モニターは新機種の投入時期により各期の売上高が左右される特性があります。当第2四半期連結累計期間においては、東日本大震災による電力不足の影響等により販売が落ち込んだ前年同期に比べ、新機種の販売が増加したことによります。

【その他】

売上高は4,641百万円（前年同期比25.4%増）となりました。

これは主に、ベッドサイド向け液晶テレビの販売が減少しましたが、ソフトウェア受託開発の売上高が増加したことによります。

利益面については、主に需要低迷の状況下、コンピュータ用モニターの価格競争の激化及びユーロ安が利益の圧迫要因になりましたが、製造原価低減を推し進めたことや、アミューズメント用モニターの増収により、売上総利益は前年同期を上回りました。

販売費及び一般管理費については、企業体質のリーン化を推し進め、費用の削減に取り組みましたが、ドイツ、イギリスに設立した販売子会社に係る立上げ費用を含めた各種費用の増加に加え、研究開発活動や広告宣伝活動を積極的に実施したこと等により前年同期と比べ978百万円増加し、7,248百万円となりました。これにより、営業利益は1,357百万円（前年同期比18.2%減）、経常利益は1,115百万円（同17.6%減）、四半期純利益は599百万円（同26.0%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ163百万円増加し、16,878百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは2,043百万円の獲得となりました（前年同期は5,213百万円の使用）。これは主に各種引当金が345百万円減少したことや法人税等の支払が1,064百万円あったものの、税引前・減価償却等前四半期純利益1,722百万円（税金等調整前四半期純利益+減価償却費+のれん償却額）を計上したことに加え、運転資金が1,622百万円減少（売上債権、たな卸資産及び仕入債務の増減額）したことによります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは1,173百万円の使用となりました（前年同期は1,145百万円の獲得）。これは主に有形及び無形固定資産の取得により664百万円を使用したことに加え、投資有価証券の取得、売却及び償還により395百万円（純額）を使用したことによります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払等により、財務活動によるキャッシュ・フローは533百万円の使用となりました（前年同期は716百万円の使用）。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

当社は、株主全体の利益を保護する観点から、当社株式に対する大規模買付が行われた際に、大規模買付行為に应じるか否かを株主の皆様が判断するために必要な情報と十分な時間を提供することを目的として、株式の大量取得行為への対応方針を導入しております。

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針の内容

当社取締役会は、公開会社として当社株式の自由な売買を認める以上、当社取締役会の賛同を得ずに行われる、いわゆる「敵対的買収」であっても、当社や株主の皆様の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではありません。特定の者の大規模買付行為に依りて当社株式の売却を行うか否かは、本来、最終的には当社株式を保有する当社株主の皆様の判断に委ねられるべきものであると考えます。

ただ、当社グループの経営に当たっては、幅広いノウハウと豊富な経験、国内外の顧客・取引先・社員等のステークホルダーとの間に築かれた関係等への十分な理解が不可欠です。株主の皆様にとっても、これらに関する十分な理解がなくては、将来実現することのできる株主価値を適正に判断することはできません。

以上のことから、当社取締役会は、議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付（以下「大規模買付行為」といいます。）に際しては、大規模買付者から事前に、株主の皆様の判断のために必要かつ十分な大規模買付行為に関する情報が提供されるべきであり、大規模買付行為に関する一定の合理的なルール（以下「大規模買付ルール」といいます。）を設定することが、当社及び当社株主全体の利益に合致すると考えます。

当社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の基本方針の実現に資する特別な取組みの概要

当社は、主にコンピュータ用モニター、アミューズメント用モニター等の映像機器及びその関連製品を開発・生産し、国内外へ販売いたしております。当社は「開発創造型企業」として、テクノロジーの可能性を追求し、顧客に新たな価値を認めていただける製品を競合他社に先駆けて創造及び提案し、顧客の満足を得ること及び当社のステークホルダー（株主・取引先・地域・社員）との高い信頼関係を構築していくことにより、一層の企業の成長を図ることを経営の基本方針としております。当社は、昭和43年設立以来、当社の強みである映像表示技術を活かし、金融市場やアミューズメント市場、医療市場・グラフィックス市場等の分野においてそれぞれの分野に適した製品を開発することで事業領域を拡大させてまいりました。今後もこれらの事業領域の成長に加え、当社の固有技術が発揮できる周辺事業を育成することにより、一層の企業価値向上に努めてまいります。

株主還元につきましては、当社は、従来から株主の皆様への利益の還元が経営上の重要課題のひとつと考えており、会社の成長に依りて安定的な配当を継続的に行うことを基本方針としてまいりました。今後も、事業拡大のための設備や研究開発投資等に必要となる内部資金の確保、財務状況、将来の業績等を総合的に勘案しながら株主の皆様へ利益の還元を行ってまいります。

会社支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されること

を防止するための取組みの概要

当社は、上記で述べた基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みとして、「当社株式の大量取得行為への対応方針（買収防衛策）」（以下「本対応方針」といいます。）を定めています。

本対応方針は大規模買付行為に際して株主の皆様が適切な状況判断を行えるようにするため、大規模買付者に対して、その目的や内容、買付対価の算定根拠等の十分な情報提供と、適切な評価期間の確保を要請し、さらに、当社取締役会による当該大規模買付行為に対する意見の公表や、代替案の提示等を行う機会を確保することを目的として導入されたものです。

本対応方針の詳細に関しましては、当社ウェブサイト（アドレス <http://www.eizo.co.jp/ir/news/2010/DC10-006.pdf>）に掲載しておりますので、そちらをご覧ください。

本対応方針が会社支配に関する基本方針に沿うものであり、株主の皆様の共同の利益を損なうものではないこと、当社役員の地位の維持を目的とするものではないこと

イ．本対応方針が会社支配に関する基本方針に沿うものであること

本対応方針は、大規模買付ルールの内容、大規模買付行為がなされた場合の対応方針、独立委員会の設置、株主及び投資家の皆様にご与える影響等を規定するものです。本対応方針は、大規模買付者に大規模買付行為に関する必要かつ十分な情報を開示していただいた後に、十分な評価期間を経た上で大規模買付行為が開始されるものとしており、当社株主の皆様が大規模買付行為に応じるか否かを判断される際に必要な情報及び期間を確保することを目的としております。また、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合でも、当該買付行為が当社の企業価値ひいては株主価値を著しく損なうと判断される場合には、大規模買付行為に対する対抗措置を発動し、株主全体の利益が毀損されることを防止します。このように本対応方針は、上記で述べた基本方針に沿うものであると考えられます。

ロ．本対応方針が株主の皆様の共同の利益を損なうものではないこと

本対応方針は、当社株主に対して大規模買付行為に応じて当社株式を売却するか否かの判断のために必要な情報を提供することを目的としており、本対応方針によって株主の皆様は必要な情報に基づく適切な判断ができることとなりますため、本対応方針は当社の株主価値を損なうものではなく、むしろ、その利益に資するものであると考えます。

さらに、本対応方針の発効・継続が当社株主の皆様の承認を条件としており、当社株主が望めば本対応方針の廃止も可能であることは、本対応方針が当社株主の共同の利益を損なわないことを担保していると考えられます。

ハ．本対応方針が当社役員の地位の維持を目的とするものではないこと

本対応方針は、大規模買付行為に応じて当社株式の売却を行うか否かは、本来、最終的には当社株式を保有する当社株主の皆様の判断に委ねられるべきことを大原則としつつ、当社の企業価値ひいては株主価値を守るために必要な範囲で大規模買付ルールの遵守の要請や対抗措置の発動を行うものです。本対応方針は、当社取締役会が対抗措置を発動する場合を事前にかつ具体的に規定しており、対抗措置の発動はかかる規定に従って行われます。さらに、対抗措置の発動等に際して取締役会に勧告を行う独立委員会の設置等、取締役会の恣意的な判断を防止する仕組みを有しております。

以上のことから、本対応方針は当社役員の地位の維持を目的とするものではないと考えます。

（４）研究開発活動

当第２四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発活動の金額は、2,804百万円であります。なお、当第２四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

（５）流動性及び資金の源泉について

当社グループは研究開発体制の充実・強化、事業活動全体の業務改革の推進及び生産効率化や環境規制への対応を目的に設備投資を行っております。将来も必要な設備投資は積極的に実施する予定であり、これらの設備資金の需要が発生いたします。また、設備資金を除く当社の主な資金需要は、運転資金や新製品の開発に係る研究開発資金、M&Aによる買収資金等であります。

当該資金需要については、これまでの営業活動で生み出されたキャッシュ・フローで賄える範囲であると考えております。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	65,000,000
計	65,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	22,731,160	22,731,160	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	22,731,160	22,731,160	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	-	22,731,160	-	4,425	-	4,313

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
いちごトラスト (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	SECOND FLOOR, COMPASS CENTRE, P. O. BOX 448, SHEDDEN ROAD, GEORGE TOWN, GRAND CAYMANKY 1-1106, CAYMAN ISLANDS (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	1,856	8.17
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) SUB A/C AMERICAN CLIENTS (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	702	3.09
村田 ヒロシ	京都府京都市左京区	681	3.00
村田 直樹	東京都渋谷区	675	2.97
野村信託銀行株式会社(信託口 2052122)	東京都千代田区大手町2丁目2-2	675	2.97
高嶋 哲	石川県金沢市	672	2.96
株式会社北國銀行	石川県金沢市下堤町1	664	2.93
株式会社北陸銀行	富山県富山市堤町通り1丁目2-26	594	2.62
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	577	2.54
株式会社ヒロアキコーポレーション	京都府長岡京市天神2丁目2-26	567	2.50
株式会社ハツキコーポレーション	京都府長岡京市天神2丁目2-26	567	2.50
計	-	8,237	36.24

(注) 1. 上記のほか、自己株式が1,410千株あります。

2. 「野村信託銀行株式会社(信託口2052122)」及び「日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)」所有株式は、当該各社の信託業務に係る株式であります。

(7)【議決権の状況】
【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,410,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,317,100	213,171	-
単元未満株式	普通株式 3,960	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	22,731,160	-	-
総株主の議決権	-	213,171	-

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社ナナオ	石川県白山市 下柏野町153番地	1,410,100	-	1,410,100	6.20
計	-	1,410,100	-	1,410,100	6.20

(注)当第2四半期会計期間末の自己株式数は、1,410,166株であります。

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

なお、平成24年10月1日付で、以下のとおり役員の異動を行っております。

役職の異動

新役名及び職名		旧役名及び職名		氏名	異動年月日
取締役	常務執行役員 開発担当 技術仕様管理部長	取締役	常務執行役員 開発担当	前田 一哉	平成24年10月1日
取締役	常務執行役員 総務部長 兼 人事部長	取締役	常務執行役員 総務・人事担当 総務部長	村井 雄一	平成24年10月1日

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,714	7,878
受取手形及び売掛金	16,742	11,983
有価証券	9,000	9,000
商品及び製品	4,982	5,833
仕掛品	5,042	4,677
原材料及び貯蔵品	7,882	10,233
その他	2,870	2,611
貸倒引当金	68	48
流動資産合計	54,166	52,168
固定資産		
有形固定資産	8,725	8,498
無形固定資産		
のれん	949	788
その他	1,060	1,645
無形固定資産合計	2,010	2,434
投資その他の資産		
投資有価証券	10,777	9,581
その他	1,352	1,455
投資その他の資産合計	12,130	11,037
固定資産合計	22,866	21,969
資産合計	77,032	74,138
負債の部		
流動負債		
買掛金	7,882	7,980
未払法人税等	1,062	291
賞与引当金	1,067	904
役員賞与引当金	51	-
ソフトウェア受注損失引当金	665	437
製品保証引当金	1,039	1,088
その他	2,718	2,631
流動負債合計	14,487	13,332
固定負債		
退職給付引当金	2,189	2,223
役員退職慰労引当金	105	101
リサイクル費用引当金	1,229	1,225
その他	1,341	839
固定負債合計	4,866	4,390
負債合計	19,353	17,722

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,425	4,425
資本剰余金	4,313	4,313
利益剰余金	49,139	49,205
自己株式	2,660	2,661
株主資本合計	55,218	55,284
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,882	2,799
為替換算調整勘定	1,422	1,668
その他の包括利益累計額合計	2,460	1,131
純資産合計	57,678	56,415
負債純資産合計	77,032	74,138

(2) 【 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 】
【 四半期連結損益計算書 】
【 第 2 四半期連結累計期間 】

(単位 : 百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)
売上高	27,862	28,489
売上原価	19,933	19,883
売上総利益	7,928	8,606
販売費及び一般管理費	6,270	7,248
営業利益	1,658	1,357
営業外収益		
受取利息	13	9
受取配当金	130	124
その他	72	15
営業外収益合計	216	150
営業外費用		
売上割引	28	62
為替差損	490	321
その他	3	9
営業外費用合計	522	392
経常利益	1,353	1,115
特別利益		
EU関税返還金	7	-
特別利益合計	7	-
税金等調整前四半期純利益	1,360	1,115
法人税、住民税及び事業税	489	290
法人税等調整額	60	224
法人税等合計	549	515
少数株主損益調整前四半期純利益	810	599
四半期純利益	810	599

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	810	599
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,736	1,083
繰延ヘッジ損益	10	-
為替換算調整勘定	251	246
その他の包括利益合計	1,997	1,329
四半期包括利益	1,187	729
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,187	729
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,360	1,115
減価償却費	600	529
のれん償却額	88	77
引当金の増減額(は減少)	30	345
売上債権の増減額(は増加)	2,401	4,626
たな卸資産の増減額(は増加)	5,079	3,129
仕入債務の増減額(は減少)	2,059	126
その他	149	25
小計	3,492	2,973
利息及び配当金の受取額	151	133
法人税等の支払額	1,872	1,064
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,213	2,043
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	624	664
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	0	399
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	2,002	4
その他	232	112
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,145	1,173
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	157	0
配当金の支払額	558	533
財務活動によるキャッシュ・フロー	716	533
現金及び現金同等物に係る換算差額	174	172
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	4,959	163
現金及び現金同等物の期首残高	21,591	16,714
現金及び現金同等物の四半期末残高	16,632	16,878

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
給与、賞与及び諸手当	1,576百万円	1,705百万円
研究開発費	2,318	2,602

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
現金及び預金勘定	8,150百万円	7,878百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	17	-
有価証券	8,500	9,000
現金及び現金同等物	16,632	16,878

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月23日 取締役会	普通株式	558百万円	25円	平成23年3月31日	平成23年6月3日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年10月28日 取締役会	普通株式	555百万円	25円	平成23年9月30日	平成23年11月30日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月21日 取締役会	普通株式	533百万円	25円	平成24年3月31日	平成24年6月1日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年10月29日 取締役会	普通株式	533百万円	25円	平成24年9月30日	平成24年11月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

当社グループは、映像機器及びその関連製品の開発・生産・販売が主であり、実質的に単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を行っておりません。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

当社グループは、映像機器及びその関連製品の開発・生産・販売が主であり、実質的に単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を行っておりません。

(金融商品関係)

金融商品の当第2四半期連結会計期間末の四半期連結貸借対照表計上額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動はありません。

(有価証券関係)

有価証券は事業の運営における重要性が低いため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	36円31銭	28円12銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	810	599
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	810	599
普通株式の期中平均株式数(千株)	22,316	21,321

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

(剰余金の配当)

平成24年10月29日開催の取締役会において、平成24年9月30日を基準日とする剰余金の配当(中間配当)に關し、次のとおり決議いたしました。

(1) 剰余金の配当(中間配当)による配当の総額 533百万円

(2) 1株当たりの金額 25円

(3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成24年11月30日

(注) 平成24年9月30日現在の株主名簿に記録された株主に対し、支払を行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月8日

株式会社ナナオ
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	上坂 健司 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	加藤 博久 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	高村 藤貴 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ナナオの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ナナオ及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれておりません。